

2019年にスタートした収入保険は、今年で4年目を迎えた。農業経営体ごとの収入を対象とした総合的なセーフティネットとして多くの農業者の支持を得て、22年9月末現在、加入者は全国

で7万7千経営体を超えた。東海地方でも、5400を超える経営体が加入している。今週は東海地方で収入保険に継続して加入している農業者に経営への思いなどを取材した。

## 収入保険を継続加入

# 不測の事態に備えて

出荷米の品質水準の一定保持に努める川合さん



域に継続的に貢献している。

「青色申告で保険金等を算定する収入保険は、水稲共済よりも明確で分かりやすい」と考えた川合さんは、2019年の制度開始時から収入保険に加入。20年にはトビロウんカが大量発生し、広範囲で被害があった。想定外の深刻さに悩まされたが、収入保険に助けられたと強調する。今年には斑点米カメムシの被害が発生。品質が低下した。また、直接の被害は無かったものの、局所的な大雨をもたらす線状降水帯や台風第15号による県内の被害も目の当たりにした。

【静岡支局】浜松市東区の株式会社川合ライスセンターで代表取締役を務める川合史朗さん(64)は、従業員7人と共に水稲約100畝の栽培に取り組んでいる。消費者に「いつでもおいしい前年から毎年協力するなど、地

川合 史朗さん 浜松市

水稲

く食べてほしい」という思いから、出荷する米の品質水準を一定に保つよう心がけているという。また、授業の一環として田植えや稲刈りに取り組む地元の小中学校に20年以上

「その時」のために、収入保険によるリスクへの備えは欠かせない」と話す。(向井)

想定外を念頭に 加入は不可欠